

日本の家族政策の展望

—日本の家族像とフランスの家族政策の観点から—

社会福祉学科 福祉政策系 阿部美穂

本研究の目的は、現役世代向けの家族支援策である家族政策について、その整備が遅れる日本の課題を指摘したうえで、フランスとの比較から、日本に必要な政策の方針について考察することである。

フランスは、多様なライフスタイル選択を保障する「自由選択」を理念とする家族政策により、家族給付、両立支援、保育方法の3つの点において家族の状況に即した政策選択が可能である。一方、日本は男性稼ぎ主モデルを基盤とする家族政策となっており、家族の現状と家族政策の間にずれが見られる。

本研究では、以上の日仏比較から、今後の日本の家族政策に求められることとして以下の二点を明らかにした。第一に、家族政策の設計において、様々な家族のニーズを包括し、「自由選択」を可能とする支援と姿勢を踏まえることであり、第二に、男性稼ぎ主モデルから脱却するために、女性向けの支援とあわせて、男性に対する仕事と家庭の両立支援策の整備を進めることである。